# 第50回全国酪農青年女性酪農発表大会

## ～九州代表として風間健太氏、隈部雅子氏が出場～

第50回全国酪農青年女性酪農発表大会が、７月14日～15日の二日間の日程で、ホテルイースト21（東京都江東区）で開催され、経営発表の部に風間健太氏（火の国酪農協）、意見・体験発表の部に隈部雅子氏（JA菊池 七城中央支所）が出場されました。

今回、新型コロナウイルス感染症対策に留意し約300名規模に圧縮されましたが、例年通り各部に６名、計12名（うち、３名がリモート）の発表が行われました。

風間氏発表

風間氏は、新規就農までの道のりや恩師との出会い、令和３年の経営成績を中心に発表され、特に就農５年目のときに熊本県牛群検定成績２位を受賞したことや新規就農数増加への取り組みについては、審査員の方々からも「素晴らしい」との評価をいただきました。昨今の酪農家戸数減少に対応するため新規就農者増加へ繋がる取組は非常に重要であるため、新規就農者のモデルとして風間氏の今後の活動についても一層注目されることでしょう。

隈部氏発表

また、隈部氏は、SDGsを踏まえつつ牛乳の消費拡大を目的に様々な活動を実践してきたことを発表されました。防災としてＬＬ牛乳（ロングライフミルク）・製品の備蓄は有効であるため、そのことを踏まえたチェックシートを制作し菊池市ホームページに掲載されたこと、ＬＬ牛乳を用いた防災食レシピの考案と今後の展望、子ども食堂での牛乳推進活動結果を中心に発表され、さらなる牛乳の有用性を伝えていただきました。コロナ禍においても周囲の酪農家や異業種の方々と積極的に活動されてきた経験は、会場の参加者にとって刺激になったことでしょう。

発表の結果、経営の部の最優秀賞については、耕作放棄地を活用して積極的に自給飼料の増産を図り、また、週休３日制を導入するなど社員がより働きやすい環境を整え、一丸となって学び、成長する経営を発表された北海道代表の中野大樹氏が農林水産大臣賞も併せて受賞されました。

また、意見・体験発表の部の最優秀賞については、トラック運転手をしてた頃に出会った酪農家のご主人と結婚した後、ご主人の怪我・酪農を辞めなければならない状況という最大のピンチを搾乳ロボットの導入等で乗り越え、酪農の魅力・やりがいを表現された茨城県代表の藤田幸子氏が受賞されました。

惜しくも両名は最優秀賞受賞は叶いませんでしたが、最優秀賞受賞者と甲乙つけがたい内容という評価を受け、共に審査委員長特別賞をいただきました。多くの方々がお二人の発表に感銘を受けたことに間違いありません。

大会当日には、感染症対策に留意しつつ懇親会が催され、全国の酪友が交流を深めました。翌日には、元オリンピックメダリストである岩崎恭子氏の記念講演があるなど、コロナ禍でも大いに盛り上がる内容となりました。また、酪農発表大会終了後に次期全国酪農青年女性会議の委員のお披露目があり、今回、九州酪農青年女性会議の委員長であります中村俊介氏が全国の委員長へ就任されました。九州ブロックからの委員長就任は歴代３人目であり、今後の活動に期待が膨らんでいるところです。

来年は発表大会をお休みし、北海道にて酪農フォーラム（仮称）が開催される予定です。詳細が決まり次第、随時皆様へ情報提供いたしますので、ぜひ来年北海道へお越しくださいますよう、よろしくお願いいたします!!

# 第46回熊本県乳牛改良同志会通常総会

米野会長

去る、７月８日（金）、熊本市中央区のホテルメルパルク熊本で熊本県乳牛改良同志会（米野浩二会長）の第46回通常総会が開催されました。

冒頭、米野　浩二会長が挨拶。その後、らくのうマザーズ大川　清治専務の挨拶、九州農政局　桑原　政明畜産課長補佐の来賓挨拶に続きまして、中原　達哉氏（火の国酪農協）を議長に選任し、令和３年度事業報告及び収支決算承認の件、令和４年度事業計画及び収支予算（案）承認の件、令和４年度会費及び徴収方法（案）決定の件、役員選任の件（案）の４議案について審議され、いずれも原案通り承認されました。また、新役員につきましては、右表の通りです。

また、カウオブザイヤー、熊本県総合指数、生涯生産乳量、高能力牛群農家、審査成績優秀農家、高能力牛、体型審査好体型牛の報告がなされ、令和３年度カウオブザイヤーは、松島　太一氏（熊本酪農協）所有のハツピーライン WM ソフラン、準カウオブザイヤーは、西本　道靖氏（JA菊池）所有のウエストロード OS アイオーン アリア REDが選ばれました。

## 新　役　員　一　覧

| 役　職 | 氏　名 | 所　　属 |
|---|---|---|
| 会　長 | 西本　道靖 | JA菊池（大津） |
| 副会長 | 松岡　明彦 | JA菊池（旭志） |
| 副会長 | 林田　敏之 | 球磨酪農協 |
| 改良局長 | 長塩　昌也 | JA菊池（七城） |
| 会　計 | 富田　洋介 | 鹿本酪農協 |
| 理　事 | 坂本　龍一 | 熊本乳牛農協 |
| 理　事 | 坂本　祥一 | JA熊本市 |
| 理　事 | 奥村　　透 | 火の国酪農協 |
| 理　事 | 髙木　大輔 | 玉名酪農協 |
| 理　事 | 松島　太一 | 熊本酪農協 |
| 理　事 | 竹内　太輔 | JA菊池（泗水） |
| 代表監事 | 宇藤　貴夫 | 大阿蘇酪農協 |
| 監　事 | 大王　隆幸 | 球磨酪農協 |

中原議長

総会風景

# 現状をどう打開するか!?

生産本部指導部営農指導課　南條健太郎

〈背景〉

2022年はロシアのウクライナ侵攻、中国の需要、原油高、急激な円安等の要因により今まで経験したことのない飼料価格の値上げに直面しており、また国内では生乳需給の緩和も加わり、飼料高・資材高で生産現場では自助努力の限界に達しています。筆者も生産現場をまわると牛の状態に関する相談だけでなく、乳代が残らない、償還計画の見直し、酪農の先行き不安などに関する話が多くなっています。また、乳価交渉については2013年以来９年ぶりに11月１日出荷分から飲用向け、発酵乳向けが10円／kg値上げされる予定です。但し、今後乳価値上げにより飲用需要が厳しくなることが予想されており、特に冬場は予断を許さないことが考えられます。そこで、生産者の皆さんも現状を打開するために様々な経営努力をされていると思いますが、今からでも間に合う飼養管理や今後の経営に関する考え方についてご紹介します。

## ～飼養管理編～

### １．現状分析を行い、飼料設計で栄養バランスの確認

現場ではコスト削減も重要ですが、本当に必要なものを削減して牛の状態、繁殖や生産性が落ちてしまうと収益が悪化し、本末転倒になります。そのためには、今までの感覚ではなく飼料設計バランスとコスト面の両方を見ながら適正な給与メニューにすることが重要です。また、今年の夏以降輸入乾牧草（北米産中心）が大幅に高騰すること（６月価格に＋10円／kg以上）が見込まれています。最近ではアルファの高騰を見込んで、アルファを減らした（無くした）設計や八代ＴＭＲ、自給飼料を最大限に活用した飼料設計相談が増えています。らくのうマザーズでは最新の飼料設計ソフト（AMTS）や牛群検定等を用いて現状分析を行い評価し、各農家のニーズに合った栄養面、コスト面、牛の状態を考慮し、適正な飼料設計案をご提案します。

※飼料設計に関する問い合わせは営農指導課までお願いします。

### ２．自給飼料生産の拡大、最大限の活用及び品質向上

濃厚飼料の自給は難しいですが、自給飼料を利活用することが生産現場では最も取り組みの多い方法となっています。但し、低品質の牧草を給与すると牛の状態が悪くなる恐れがありますので、必ず粗飼料分析を実施することをおすすめします。また、自給飼料については土壌分析による適正な施肥管理、品種選定、適期播種や適期収穫、雑草や病害虫の適切な防除対策等の見直しをすることで収量、単収、品質に差が出ますので多角的な取り組みをお願いします。例えば、稲WCSも品質や給与内容次第では乾物で５kg程度給与することも可能です。コーンサイレージについても収量及び品質次第では増給の検討をお願いします。

### ３．繁殖の悪い牛や慢性的な乳房炎牛、長期未受胎牛や低乳量の牛は早めの淘汰

乳房炎牛については早めの治療及び搾乳手技（清拭の徹底）、牛床管理を徹底し、未然防止をお願いします。また、飼料コストが高い状況下では頭数を持つだけでは利益は出づらいため、牧場にとって残すべき牛かどうかを検討し、駄牛については早めの淘汰、初妊牛の導入や自家育成牛が分娩するタイミング等で牛の入替をお願いします。

### ４．移行期管理の徹底

基本は良質粗飼料を飽食し、乾物摂取量を最大化することです。そして、できるだけ過密な環境にしない。ビタミン、ミネラル等を必要量給与し、日々の観察を行い、周産期疾病の未然防止に努めてください。

## ～経営管理編～

### １．現状の売上や経費の確認

牧場での生乳代や副産物収入がどれだけあるのか、現状の１頭当たりの飼料コストやその他の経費がどれくらいかかっているかを確認して下さい。牧場の収益＝売上－経費であり、牧場ごとに売上や経費そして生産コストは異なります。青色申告書や決算書で確認することも可能です。例えば、乳代精算書を見てどういった費用がかかって

いるか確認をお願いします。

**２．財務状況次第では運転資金借入の検討**

夏場は季節別乳価が高くなりますが、冬場は季節別乳価が下がるため手元の資金が減り、資金繰りが心配な牧場も多いと思います。現在、飼料価格高騰の影響緩和のために長期運転資金の利用と経営の安定化に向けた各種制度資金があります。例えば、新型コロナ対策緊急支援資金・農業近代化資金・セーフティネット資金については、借入条件が優遇され低金利の資金も準備されていますので、手持ちの資金が心配な方は早めにご相談をお願いします。

**〈まとめ〉**

残念ながら現状の経営をすぐに打開する特効薬はありません。しかし、各牧場に合った今できる飼養管理や経営管理を今日から実行することが重要です。執筆時点（令和４年７月）ではシカゴ相場は下落傾向にありますが（図１参照）、為替動向次第ですが、今後の飼料価格への反映は不透明です。現在厳しい情勢が続いていますが、出来る限り各牧場で出来る改善や経営効率を上げて乗り越えていきましょう！

何かご不明な点があれば営農指導課までご相談下さい（TEL 096-388-3510）。

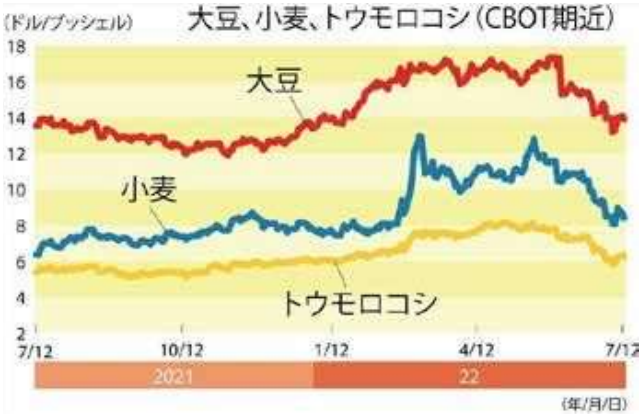


図１　シカゴ先物相場の直近１年間の推移
（2021年７月～2022年７月）

# COLUMN ―コラム―

## 「酪農と県庁生活の思い出」

熊本県農林水産部生産経営局
畜産課課長　鬼塚　龍一 氏

昭和62年４月、県入庁と同時に畜産試験場勤務を命じられました。私は大家畜部の酪農担当になり、その後２年間、酪農関係の試験研究に携わることになりました。

畜試は、昭和40年台に建設された40頭の対尻式、自然流下式の酪農牛舎でした。その当時、県内の多くの酪農家が畜試の牛舎をモデルに作られていたと聞きました。

私は、主にＴＭＲの試験を担当しました。地域の未利用資源を乳牛のエサにできないか？という試験で、前年までに、ミカンジュース粕を利用した試験が終了しており、（今でも、ミカンジュース粕はＴＭＲの原料として利用されていますね。）次の未利用資源として、イガラ（イ草の残さ）をアンモニア処理してＴＭＲの原料にする試験です。夏の暑い日に玉名の横島干拓にイガラの集草に行き、こんなん食べるの？と思いましたが、ＴＭＲの原料としては、十分活用できることがわかりました（ミカンジュース粕と違って、使われていませんが…）。また、ＴＭＲにギ酸を添加し、夏場の二次発酵を防ぐ試験もしていました。当時、繋ぎ牛舎からフリーストール、フリーバーン牛舎へ移行する中、飼料の給与方法もそれに合わせて、ＴＭＲが利用されるようになってきた時期でした。

また、平成元年４月に、畜産試験場に農業試験場など他の試験研究機関が統合整備され、農業研究センターとしてオープンする計画があり、畜試も牛舎等が整備されている真只中でした。酪農牛舎の基本設計は既に終了しており、昭和62年夏頃から、実施設計の作業に入っていき、試験研究と施設整備の両方の業務をやっていくことになりました。畜産試験場阿蘇支場（現草地畜産研究所）で実施していたステーション検定を畜試で行うことがすでに決定されており、飼養頭数も大幅に増加することから、フリーストールのパーラー（５Ｗ）の導入を決めました。パーラー選定にあたっては、色々なメーカーの話を聞き、検討を重ねた結果、ドイツのW社の機械を導入することになりました。このパーラーシステムは、個体毎の乳量、体重が毎日自動で計測でき、そのデータをもとに配合飼料を自動で計算、給餌するシステムを備えていました。ＴＭＲ飼料を薄めに設計し、不足分を濃厚飼料で個別に給与する設計であり、現在のＰＭＲの考え方です。当時国内でも最先端のシステムであったと思います。（その思想は現代の搾ロボのシステムと同じです。）

その後、設計も終わり、工事に着工しましたが、残念ながら牛舎が完成する前に異動となり、新牛舎で仕事することはなく芦北に転勤になりました。

その後、各地を転々とし、28年後に再び畜産研究所に赴任し、思い出の酪農牛舎で仕事をすることが出来ました。まず驚いたのが、ストールが短い！牛が大型化し、長さがまったく足りなくなっていました。また、機器も老朽化しており、スポットエアコン、フィードステーションはまったく使われていませんでした。建設から長い年月が経ち、建て替えの必要性を実感しました。

２年の勤務後、県庁畜産課、芦北振興局を経て、令和３年、三度、畜研勤務を命じられました。酪農牛舎は、最新の搾乳ロボットが入った近代的な牛舎に様変わりしており、乳汁のホルモンや体細胞も測定できる機器やエサ寄せロボット、発情発見装置、牛恩恵など最新の機器も装備されていました。便利な世の中になりました。

また、県庁畜産課勤務時代（平成25年）には、あか牛の受精卵を乳牛に移植し増産する事業に携

わりました。どうやったら酪農家の皆さんの協力が得られるのかを、酪連の職員の方々と議論しながら事業を作り上げていった事が蘇ります。熊本県は酪農王国であり、肉用牛の増産にもなくてはならない存在であることをあらためて感じました。

以上、県に入庁してから酪農に関する業務について懐かしく思い出しながら書かせていただきました。（これ以外にも、現地で酪農家の皆さんからいろいろな話を聞かせてもらったり、お酒を酌み交わしたりと楽しい思い出もたくさんあります。お世話になった方々、ありがとうございました。）

時代とともに乳牛の飼養環境は変化し、それに合わせて酪農家の技術対応も変化してきました。乳牛の能力は育種改良によって格段に向上し、牛舎や周辺機械も大きく様変わりしてきました。

しかし、どんな時代も乳牛が主役です。ルーメンの機能を上手く利用し、草資源を牛乳に変える乳牛の力は何ら変わることはありません。これからも、主役を引き立て、持続できる酪農経営を目指して頑張っていきましょう。

**経 歴**

**鬼塚龍一 氏**

昭和62年４月　県入庁　畜産試験場
平成元年４月～芦北、八代、県庁畜産課、球磨、八代、球磨
20年４月　県庁畜産課
27年４月　畜産研究所大家畜室長
29年４月　県庁畜産課　審議員
31年４月　芦北振興局　農林部長
令和３年４月　畜産研究所　所長
４年４月　県庁畜産課　課長